

## 治療関連造血器腫瘍に関する調査研究

### 1. 研究の対象

2010 年 1 月から 2022 年 12 月までの期間に、当院で急性骨髄性白血病 (AML)、急性リンパ性白血病 (ALL) 又は骨髄異形成症候群 (MDS) と診断された方。

### 2. 研究の概要

研究期間: 総長の研究実施許可日～2026 年 12 月 31 日

研究目的: 近年の腫瘍分野の治療開発はめざましく、抗がん剤治療後にも長期生存される患者さんの数は増加しています。その一方で、抗がん剤治療等の副作用が、治療終了から長期間経過したのちに出現すること(晩期毒性といいます)が問題となっています。

治療の晩期毒性の一つとして、造血器腫瘍(血液のがん)があります。とくに、抗がん剤治療の終了から数年経った後に急性白血病や骨髄異形成症候群が発生することがあります。これらの疾患は、治療関連白血病、治療関連骨髄異形成症候群、等と呼ばれ、致命的な経過になることが多いとされてきました。

治療関連造血器腫瘍の存在自体は、比較的古くから報告されていました。しかし、近年の抗悪性腫瘍剤や治療戦略の進歩を経て、治療関連造血器腫瘍の発生状況が変化しているかどうかについては、十分な検討がされていません。また、治療関連造血器腫瘍は、現代であっても難治性の経過を辿ることが多く、治療が難しい病態です。

したがって、本調査の結果に基づき、現在の治療関連造血器腫瘍の実態を解明することが、そのリスク管理や治療方法の最適化につながることを期待しています。

研究方法: 本研究は、研究対象者の方を後ろ向きに調査し、造血器腫瘍の治療経過(治療内容、治療の効果)等に加えて、造血器腫瘍が診断された日より前に、他の悪性腫瘍に対する治療歴(とくに、抗がん剤治療)があったかどうか、調査します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 年齢、患者イニシャル、性別、がん治療歴の有無、AML、ALL 又は MDS の診断・治療経過等

なお、本研究では試料の利用ございません。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 血液内科 油田 さや子

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上